

## [11] 東臼杵郡小体連

(学校数 16 校 児童数 1,429 人)

### I 年間事業

日 時	内 容	場 所
6月20日(月)	第1回東臼杵地区小体連 理事会・評議員会	諸塙村中央公民館
7月21日(木) 7月22日(金) 7月27日(水)	美郷町小学校水泳大会 諸塙村水泳記録会 椎葉村小体連水泳大会	美郷南学園プール 諸塙村営プール 椎葉小プール
10月 5日(水) 10月25日(火) 10月27日(木)	諸塙村小学校陸上記録会 椎葉村小体連陸上大会 門川町小学校陸上教室	諸塙村総合運動公園 椎葉村総合運動公園 門川町海浜総合公園
10月28日(金)	第57回宮崎県学校体育研究発表大会に参加	えびの市立飯野小学校
2月下旬	第2回東臼杵地区小体連 理事会・評議員会	諸塙村 諸塙村中央公民館

※ その他、各町村で体育主任会を数回実施している。

### II 事業部のあゆみ

#### 1 水泳大会・教室

地区	大会名	実施日	会場
美郷町	美郷町小学校水泳大会	7月21日(木)	美郷南学園プール
諸塙村	諸塙村水泳記録会	7月22日(金)	諸塙村営プール
椎葉村	椎葉村小体連水泳大会	7月27日(木)	椎葉小プール

【出場者】 諸塙村 3~6年、美郷町・椎葉村 5, 6年児童 (161名)

【実施種目】 25m (自由形、平泳ぎ) 50m (自由形、平泳ぎ) 100m リレー

#### 2 陸上大会・教室

地区	大会名	実施日	会場
諸塙村	諸塙村小学校陸上記録会	10月 5日(水)	諸塙村総合運動公園
椎葉村	椎葉村小体連陸上大会	10月25日(火)	椎葉村総合運動公園
門川町	門川町小学校陸上教室	10月27日(木)	門川町海浜総合公園

【出場者】 門川町・諸塙村・椎葉村 5, 6年児童 (245名)

【実施種目】 100m走 50mハードル走 女子800m走 男子1000m走  
走り幅跳び 走り高跳び ソフトボール投げ 400mリレー

※ 地区によって実施していない種目あり

### III 研究のあゆみ

#### 1 研究主題

##### 生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学習の在り方 ～少人数のよさを生かした学び合いの指導を通して～

#### 2 主題設定の理由

現代社会は、知識基盤社会と言われ、新しい知識・情報・技術が、政治・経済・文化をはじめ、社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す社会である。このような変化の激しい社会をこれからの中学生たちは生き抜いていかなければならず、そのために必要な力を身に付けていくことが現在求められている。

東臼杵地区は、美郷町小学校、諸塙村小学校、椎葉村小学校、門川町小学校の4つ小学校体育連盟が集まり構成されている。いずれの小学校も小規模であり、自然に囲まれている環境ではあるが、近くに公園や運動施設がなかったり、バスや車による登下校で日常的に運動不足に陥っていたりして、遊びや運動の機会が多くあるとは一概には言えない。また、スポーツ少年団などの活動も各校でばらつきがあり、特にスポーツ少年団そのものがない山村地域の小学校では、学校以外での運動をする機会がほとんどないのが実情である。そのため、運動能力の二極化が児童間で広がっている地区もあり、運動の機会が極端に少ないまま大人になってしまう可能性のある児童も見られる。人間形成において重要な時期である小学校段階に、運動に親しむ資質や能力の基礎を形成することは、生涯にわたってスポーツに親しむために大変重要であると考える。

東臼杵地区では、研究主題を「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学習の在り方」とし、4つの町村それぞれの小学校で、児童や学校、地域の実態に応じて副題を設定し研究に取り組んできた。

諸塙村小体連では、「わかった」「できた」など運動の成果を実感する児童の姿をめざし、全ての児童が運動の特性を十分に味わい、運動の成果を実感できる言葉かけや教具、学習形態の工夫などを研究してきた。できる児童とできない児童が極端に二極化していた状況下において、少人数のよさを生かし、徐々に児童が仲間とじっくりとかかわり合いながら動きの習得をめざす姿が見られるようになってきたところである。

そこで、各学校での取組を継続させながら、昨年度のゲーム・ボール運動から、本年度は器械運動へと研究領域を変更した。少人数のよさを生かした学び合い活動を充実させ、技能を高めるための手立てを工夫しながら、体育科授業の改善を図り、各校の授業実践に生かすことで、健やかな心と体を育み、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てることにつながるのではないかと考え、本主題を設定した。

#### 3 研究の目標

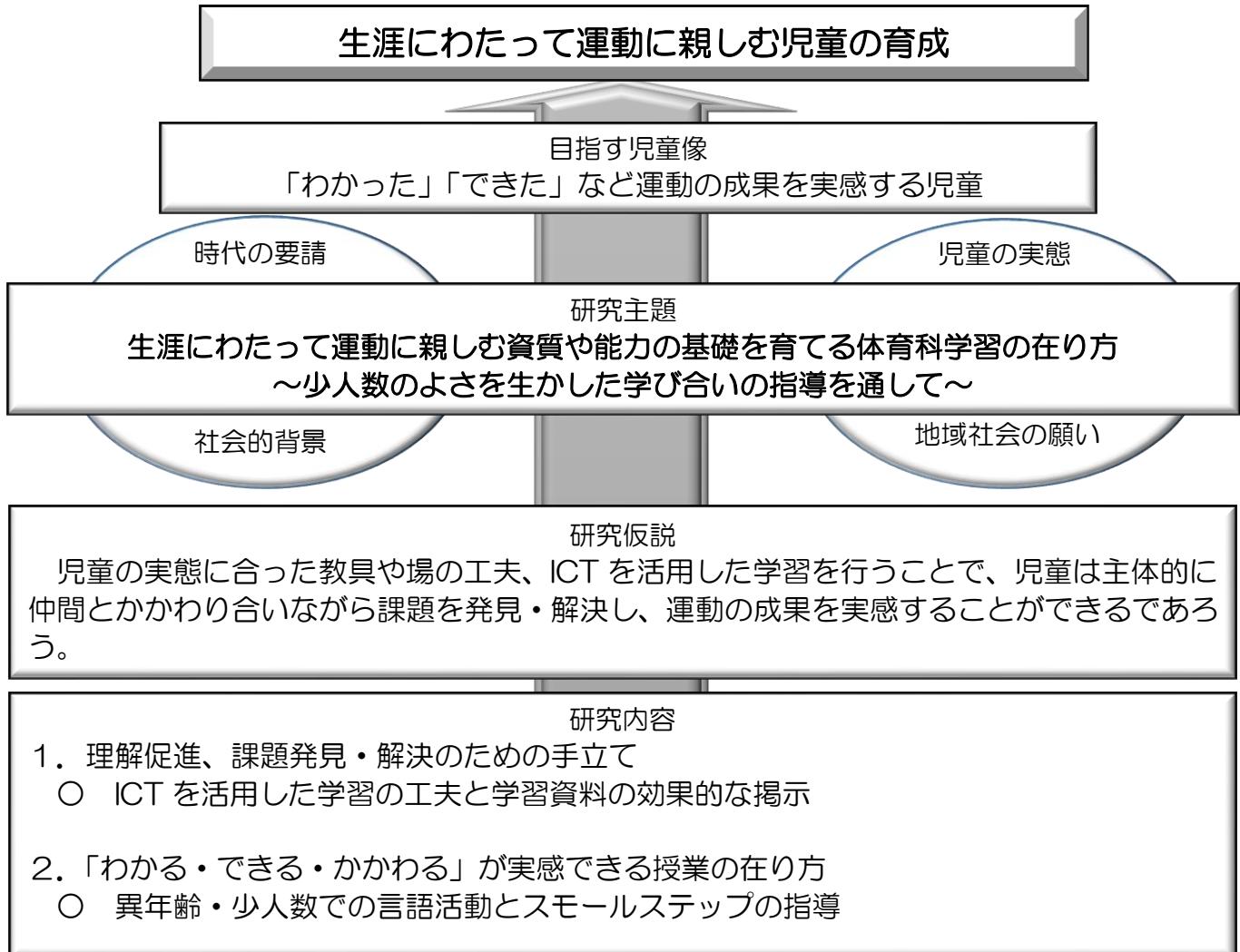
少人数のよさを生かして、仲間とかかわり合いながら課題を発見・解決し、運動の成果を実感する指導方法の工夫を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学習の在り方を追求する。

#### 4 研究の仮説

児童の実態に合った教具や場の工夫、ICTを活用した学習を行うことで、児童は主体的に仲間と

かかわり合いながら課題を発見・解決し、運動の成果を実感することができるであろう。

## 5 研修の構想



## 6 研究の実際

体育振興指導員として体育の指導教諭である村中田博先生に、全7時間の計画で七ツ山小に来校していただき、器械運動「跳び箱」の授業づくり、手立てのとり方等についての研修を行った。



### (1) 理解促進、課題発見・解決のための手立て

#### ア ICTを活用した学習の工夫



模範演技の提示やゴールの姿をイメージさせるためにスクリーンを使用。動画と静止画で、分からせたいことを一瞬で見せることができる。



スロー・反転・連写・書き込み・2画面比較など、様々なiPadのアプリを活用して、自分の跳んでいる姿を客観的に確認させ、課題の発見・解決へつなげる。



## イ 学習資料の効果的な掲示



ICTと連動し、常に学びが確認できるよう、ポイントを言語化し常掲する。

### (2) 「わかる・できる・かかわる」が実感できる授業の在り方

#### ア 異年齢・少人数での言語活動



例えば、準備運動一つでも、跳び箱をする前に必要な運動は何かをグループで考えて話し合いを行う。

少人数のよさを生かし、上学年が下学年の手助けをしたり、助言し合ったりすることで、みんなでかかわり合いながら、できるようになる喜びを実感させていく。

## イ スモールステップの指導



段階的指導を行い、基礎感覚を高めてから系統的にステップアップさせていく。段階ごとの場をいくつか作り、自由に学び直しができるようにする。

## IVまとめ（成果と課題）

### (1) 成果

- ICTを積極的に活用することで、自分の姿を客観的に見せることができ、課題の発見・解決するための方法や練習を考え、取り組ませることができた。
- 出来映え基準や自分のつまずきの手立てを動画で確認することができ、具体的な動きのイメージをもたせながら学習を進めることができた。
- 少人数のよさを生かし、話し合ったり考えたりする場を意識的に取り入れることで、児童が助言し合いながら笑顔で主体的に参加する姿がたくさん見られ、次時への意欲を継続させることができた。
- 段階的指導と場の工夫を行うことで、児童自身も系統性が把握でき、必要な基礎感覚をしっかりと身に付けようという意欲的な姿勢が見られた。

### (2) 課題

- 発達段階における技能の習熟について、指導内容の系統性を明確にしていく必要がある。
- 他領域にも同様の研究を広げることにより、体育学習全体の充実を図る必要がある。